

答 辞

日差しがだんだんとやわらかくなり、開花を待つ桜の蕾の伊吹が感じられる頃となりました。

本日は、私たちのために心温まる卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、先生方をはじめ、来賓の方々のご臨席なされる中で卒業できることを、卒業生一同、大変うれしく思っております。

自分の体よりも大きな制服とたくさんの中身が詰まった通学靴を持ち、期待や不安を胸に入学したあの日から、はや3年の月日が流れました。思い返すととても中身の濃い3年間でした。

1年生。授業のスピードについていくのが精一杯で、不安だらけでした。早く先輩のようになりたいと強く憧れたのを今でも覚えています。

2年生。後輩ができ、「先輩」と呼ばれることに嬉しくもありましたが、少し気恥ずかしくもありました。宿泊学習では、富山県全体を跨いで活動することが不安でしたが、班員と協力して計画を立て、有意義な時間を過ごすことができました。社会に学ぶ14歳の挑戦では、仕事をするものの厳しさや大変さ、そして仕事のやりがいを知ることができました。

そして、3年生。新型コロナウイルスの影響でいろいろなことが制限される中、私たちは2か月の休校期間を経て、仲間の大切さを改めて実感しました。また、それまで気づかなかったありがたみを再認識しました。

部活動では、様々な大会が無くなり、ショックを受けました。しかし、今まで積み上げてきたことを無駄にはしたくないという思いで、引退するまで一生懸命部活動に取り組み続けました。スポーツ交流大会砺波地区大会が開かれると知ったときは、仲間とともに大喜びしました。そして、今まで部活動に取り組みしてきたのは当たり前では無く、先生方やいろいろな方々の支えがあったからだということを実感し、その思いに応えるためにも、もっと必死に部活動に取り組みたいと思いました。

運動会では、コロナ禍で密集や密接をしないことが求められました。応援合戦や騎馬戦、タイヤ奪いなどの接触のある競技はできないと考えました。そこで、実行委員会では全員で演舞をすることで、絆を高めようと考えました。また、密を作らないために何ができるかを生徒全員で考え、念入りに準備を進めました。そして、今までに無いアイデアをたくさん採り入れて形成された今年の運動会は、規模縮小を感じさせない、最高の大谷色（おおたにカラー）に仕上がりました。それも、ここにいる仲間、先生方やいろいろな方々のおかげです。

さて、これらの部活動や運動会などの活動ができたのも、在校生の皆さんの支えがあったからです。いつも私たちを支えてくれて、本当にありがとうございました。これからは2年生を中心に、私たちが受け継いできた、「あいさつ」や「時間を守る」、「一生懸命物事を行う」などの伝統を受け継ぎ、力を合わせて、よりよい大谷中学校を築き上げて下さい。

そして、お父さん、お母さん。部活動や受験など、様々な面で私たちをフォローして下さい、ありがとうございました。私たちが反発したときも、いつの時でも私たちを受け入れてくれました。普段は照れくさくて言えないけれども、とても感謝しています。

いよいよ、お別れの時が近づいてきました。私たちは今、大谷中学校を巣立ちます。そこには、未知なる世界やいろいろな辛いことが、私たちを待ち受けているでしょう。しかし私たちは、コロナ禍で身につけた、「物事をポジティブに考える力」で、必ずそれらの困難を乗り越えていくことを約束します。

最後になりましたが、本日卒業式に出席して下さいました皆様へ感謝し、大谷中学校のさらなる発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

令和3年3月16日

第37回卒業生代表 眞田 悠来